

人の花咲かプロジェクト

むかし昔、人々は持って生まれた能力を、特に活かせることもなく、まるで生活をするために生きているかのようでありました。

一日の時間のほとんどを労働に使っていた、もったいない時代がありました。

その頃、人々の多くは、自分の中心から少し、あるいは完全にズレたところで生きておりました。

元気の源である「自分の中心」とつながって生きていないため、精神的に不安定になったり、イライラしてすぐに腹を立てる人々がたくさんおりました。

そういった人々の想いや、行動の源にあったのは「恐れ」でした。

「恐れ」が想いの中心にあるので、人々は競争原理や奪い合いの精神に、突き動かされておりました。

心の病にかかる者がどんどん増え、家庭の中での暴力や、学校や職場でのイジメ、環境破壊に戦争と、世界は破壊のエネルギーに満ち満ちておりました。

そんな時代がどんどん進行して行く中で、この世界をあきらめるのでもなく、嘆くのでもなく、はたまた批判するのでもなく、本来の人の持つ力を信じて、ただ黙々と種を蒔く人々がおりました。

種を蒔く人々は「問題の原因は、人が自分自身の中心とつながって生きていないためだ」ということに気づいておりました。

ですから、人々が自身の中心に戻れるような機会をつくっていかうと、それぞれ自分の好きなことや得意なことで、種を蒔いてゆきました。

ところで種はどのようにしてできるのでしょうか？

種を作るには花を咲かせればいいのです。

一人ひとりが自分の花を咲かせれば、そこに種は生まれます。

土の中には、長い間眠ったままの種が何千何万とあるそうです。それらの種は、何かの拍子に土が耕されたり、揺り動かされたりすると、その刺激で目を覚ますそうです。

人の中にも、たくさんの種が眠っています。そして、何かの拍子に心がほぐれたり、感動して心が動かされたりした時に、心の種は「ぴこっ」と目を覚ますのです。

種が目を覚まして、芽が出て花が咲くまでは、しっかり世話をしあげなくてはなりません。芽がまだ小さい時には、外からの強い雨風から守ってあげ、伸びはじめたら今度はせつせと水をやり、陽に当ててあげるのです。

それは自分自身の仕事です。

人が花を咲かせれば、その花を見た他の誰かの心が動き、眠っている種が目を覚まします。一つの花からは、たくさんの種が生まれます。

そして、さらに、人は「種を蒔く」ことができるのです。未来の実りをイメージし、土を耕し、種を蒔ける、人という生き物。

黙々と種を蒔く人々の行為が、ある一定値を越えた時、世界中に一斉に花が咲きはじめました。

それらの花々を愛でることによって、さらに人々の中に眠っていた種も次々と目を覚ましていきました。

こうして、世に咲く花はどんどん増えていき、世界はあっという間に、色とりどりの花でいっぱいになりました。

きれいな花を見て、「きれい・・・」と愛でる時、人は自分自身の中心とつながっています。

愛でるとは、すなわち愛の状態にいるということです。

こうして世界は今のような、愛のエネルギーで満ち満ちるようになったのでした。

おしまい。

脳内お天気しあわせ研究学会

POOL

(<https://fuura.com>)